

日本海ケーブルネットワーク株式会社（NCN）

2011年春季放送番組審議会議事録

■日 時：2011年2月25日（金）午後1時半～3時

■場 所：日本海新聞本社ビル6階会議室（鳥取市富安2丁目137番地）

■出席者

審議委員：谷口博繁（会長、鳥取環境大学常務理事）、福田京子（副会長、県地域づくりセンター所長）、見生義明（鳥取市情報政策課長）、森徹郎（倉吉市総合政策室長）、松浦弘幸（三朝町企画観光課長）、佐々木千代子（サラベル鹿野社長）、山崎博（アクティ鳥取営業部会長）、田中恒夫（鳥取信用金庫理事地域振興部長）、千葉雄二（とっとり地域連携・総合研究センター）※役職は当時、敬称略、順不同

NCN：徳田真吾（常務取締役局長）、富長一郎（次長兼編成制作部チーフマネージャー）、中嶋信行（編成制作部係長）、清水隼人（倉吉放送センター編成制作部主任）

■日 程

1, 開会あいさつ

2, 出席者紹介

3, 経過報告

4, 協議事項

①会長、副会長の選出

②放送基本計画の変更について

③自主制作番組対するご意見

①協議の結果、会長人事は事務局が谷口博繁氏を推薦し、全委員が同意。副会長人事は会長一任となり、谷口会長が福田京子氏を推薦し、委員の同意を得た。

②放送基本計画の変更は、2010年7月に岩美町チャンネル、10月1日にハイビジョン放送およびデータ放送が始まったことに伴うもので、自主放送チャンネルプランに鳥取市エリアでのデータ放送と岩美町エリアでの岩美町チャンネルを追加。委員の同意を得た。

③NCNのニュース番組「ピットステーション」のほか、年始の「まるかじり2011」「ジオベンチャー」「ミュージックリング絆」「ガイナール・スサノオ対談」などを視聴してもらい、委員から意見を募った。

委員からの意見と事務局の回答は次の通り。

・「ピットステーション」について

（委員）内容は地上波よりもきめ細かく地域を報じている。難聴や目の見えない人への対応はどうしているのか

(事務局) 難聴者にはテロップを増やすなどして配慮している。将来的には字幕放送システムの導入も検討したい。

(委員) 市民が関心のある話題を特集などで取り上げてもらっており、行政としてもありがたい。ケーブルテレビならではの地域に密着したキメ細かい情報に期待している。

(委員) 冬季、特に高齢者は在宅時間が延び、情報源としてNCNは貴重だ。きめ細かな取材に配慮してほしい。

(事務局) ニュースだけでなく、地域の課題などについても掘り下げて情報発信していきたい。

(委員) 私が住んでいるエリアはNCNの加入率が高く、地域でよく話題になる。身近な人が登場するのを楽しみにしている。

(委員) 情報はできるだけ客観的に伝えてほしい。30分の繰り返し放送は内容がよければ問題ない。2度見たいニュースもある。

(事務局) 情報の量ばかりでなく、質にも心がけたい。

・「新春特別番組」について

(委員) ジオパークやウサギ年にちなんだ話題などを取り上げているが、どうやって情報を集めているのか。

(事務局) スタッフが情報を持ち寄ってまとめている。十分に情報収集しきれていない面があるかもしれない。できるだけ視聴ターゲットを意識して番組を作るようにしている。

(委員) ジオパークは会社でも話題になった。文字では伝えきれないことを映像で伝えてほしい。

(事務局) ジオパークについてはこれからも継続的に紹介していきたい。

・その他

(委員) 「ニュースの焦点」は日本海新聞の記事が映像で「見える化」されており、わかりやすい。今後も地域の取り組みを映像で継続的に紹介してほしい。

(事務局) 人間的に難しい面もあるが、同じ素材を継続的にウォッチして紹介していくことも考えたい。

(委員) ニュース番組の告知が足りない。地上波はテレビ欄でその日流すニュースもPRしている。

(事務局) それは痛感している。ニュースの内容はHPで公表しているが、なかなか普及していないのが実態。日々のニュースをリアルタイムで告知するかたちを目指して改善を考えたい。

(委員) 視聴率はわからないのか。

(事務局) 調査システムの導入を検討している。

(委員) 地上波は食の番組やバラエティーに偏りすぎている。NCNは節度を守ってほしい。

(事務局) 情報番組はトレンドだが、そうでない道も探りたい。いたずらに地上波の真似をせず、独自のあり方を探りたい。

(委員) グループ会社に新聞社があり、新聞では各地の販売店がきめ細かな情報を寄せている。NCNでも同様な取り組みはできないか。

(事務局) 検討したい。